

強い農業づくり総合支援事業の取組事例(平成27年度:事業実施主体:庄内たがわ農業協同組合)(山形県)

取組の概要

- 対象品目 : 果樹(ぶどう)
(受益面積: 30ha)
- 成果目標1: 全栽培面積に占める加工品の割合の16.7ポイント増加
 ・基準(H26年度) 21ha/54ha(38.8%)
 ・目標(H29年度) 30ha/54ha(55.5%)
- 成果目標2: 輸出向け出荷額の2191.6%増加
 ・基準(H26年度) 12万円
 ・目標(R1年度) 275万円
- 導入施設等: 農産物処理加工施設
 ・製造施設一式
 ・ワイン充填ライン
 ・醸造タンク
 ・貯蔵タンク

山形県鶴岡市



ポイント

【取組の主題(テーマ)または課題】

県内における加工用ぶどうの主産地は内陸部であり、沿岸部である当該地域では、施設や機械の制約もあり、生産される果実の全量をJAで受け入れることができず、事業拡大等の新たな展開を図ることが困難であった。また、生産者の高齢化に伴う廃園等により、産地維持に支障をきたしている。

一方、近年では、ぶどう品種「甲州」の白ワイン醸造に取り組み、国内コンクールで金賞を獲得するなど、「甲州」を生食用から加工用として見直し、作付を振興する機運があり、この方向性を後押ししていく必要がある。

【産地としての持続性を確保し、収益力を向上するための方策】

醸造施設を整備することにより、果実の受け入れ制限の解消を図り、ワインの販売戦略とブランド化・高付加価値化戦略を進めていくとともに、新たに輸出等に取り組み、生産者の所得向上を目指していく。

また、廃園の再生と新たな園地の整備等により加工用ぶどうの産地としての振興を図り、生食用から加工用への転換を推進していく。

推進体制

- 山形県庄内総合支庁 農業技術普及課、農業振興課
- 鶴岡市

- JA庄内たがわ
- ①計画の策定・管理
 - ②取組の実施 等

指導・助言・各種支援

関係機関(県・市)による指導、助言、各種支援等のサポート体制

地域における独自の取組

- 果実酒の全国販売拡大の開始
- 国内外ワインコンクールへの出品、受賞
- ぶどうの搾りかすを堆肥化

取組成果

【事業実施による直接効果】

- 商品の製造・管理の確立が図られ、ブランド力が向上
- 買入数量の拡大による安定的な商品供給が実現

【事業実施による間接効果】

- 果実酒の安定生産・品質の向上により国内外ワインコンクールで多くの商品が受賞し、販売拡大
- ぶどう生産者の生産意欲向上により高品質原料の買入が実現



加工用ぶどうの作付面積拡大・輸出額増

